



民主主義の世、  
どんな意見を  
持とうと自由。



# つくる会教科書 杉並区でなぜ？



## ジス・イズ・フリー・カントリー。

第7巻第8号  
通巻第80号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : [colors@go-karasu.com](mailto:colors@go-karasu.com)

まずは漢方薬を飲み、家内が弁当を作つたりするのなんぞを横目で見たり聞いたりしながら、左目で新聞を読みつつ、もう片っ方の目でモーニング・ショー的な番組をちらちらと眺め、日本の未来を憂ふ。私の朝は、概ねそんな具合に始まる。君という人は、毎朝、毎朝、陰気な顔をしてこの国のあやふやな行く末を思い悩んで嘆息しているというのか、は、そりゃ全く御苦労だ、などと思う人もいるかもしれないけれど、耳目に飛び込んでくるニュースの、その大半が、悲惨だったり恐ろしかったり醜かつたりするのであり、私だって、朝から厭な気持ちになりたいなど願ったりはしないのだけれど、なってしまうものは仕方がない。斯様な情報を垂れ流すメディアが悪いのである。いや、つまり、元を辿れば、醜と悪に満ちみちた世間というものが悪いのである。

と同様、草薺りのない私の朝など殆どないのである。  
庭仕事の作業とはどんなものかというところ、まあ、御想像の通り。雑草を取ったり、土を均したり、水を遣ったり、肥料を蒔いたり。曲がったものには添え木をあて、枯れた葉を薙り、根元を薙ぐ。回子虫を隣の空き地に移動させ……などといったところ。蚊に刺されながら、額に汗して働くのである。しかし、それらは全て外面的なことに過ぎない。外面は外面、内面は内面。当たり前だ。心の動きはまた別のもの。  
回子虫が唐辛子の根本周辺に集まっている。園芸家として不勉強なので、連中が具体的に何をやるのか、ということには、判らないのだけれど、兎にも角にも、害を齎すらしいということは聞き齧っている訳で、ならば排除せねばならない、と思う。しかし、殺生は私の好むところではないので、傷つかないようにスコップで掬って、向かいの空き地にせつせと運ぶのである。だが、待て。回子虫を殺生しないという私の所為で、向かいの空き地の草々が今度は被害者になるのではないか。そうなのだ。私という人間は向かいの空き地の雑草たちの生活や生命を犠牲にすることによって、俺様は殺生なぞせ

(最終面に続く)

今日の紙面から

- 一・二面からすライブラリー  
本 『半島を出た』  
映画 『花とアリス』
- 四面(ロンドンレポート)  
Gap Year
- 五面(語彙)  
選挙ワーズ

からす新聞は×××××  
が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。  
誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



## 花とアリス

2004年公開(日本)

DVD:NND-9(アミューズソフトエンタテインメント)

監督:岩井俊二

出演:鈴木杏、蒼井優、郭智博

岩井俊二の映画を見終わったあとにはいつも、悪くないよな、と思う。悪くないよなとは思うものの、決して好きにはなれない。物語を作るのも、素敵な役者を起用して彼女たちの本当に素敵なところを引き出すのも、記憶の中の何かに触れるような小細工を入れるのも、中々に巧みである。かなりの才能の持ち主であることはまちがいない。なのに、好きになれない。よくよく考えてみた結果、一言でいうと「あざとい」。この語に集約される。彼の、あるいは、彼の作品の中の、そこはかかないあざとさに邪魔されて、どうしても好きにはなれないのである。

考えてみれば、この『花とアリス』だって、相当にあざとい代物ですよ。どうしたらこんなに私の嫌いな人ばかりを集められるのかというようなカメオ出演者群、これ見よがしの気取っているけれど無駄なシーンの数々、などなど。振り返るだに不愉快だ。けれども、それでも、私はこの映画を二日続けて見てしまったのだし、きつとまたいつか見てしまっただろう、というとても真実である。あれこれと思い返していたら、また見たくなってきたよ。その魅力の大半は、蒼井優と鈴木杏という二人の少女に依存しているとはいえ、やはり、岩井俊二はそれなりに有能なのだ。ああ、でも、やはり、好きにはなれない。

(全太)





## 半島を出よ

村上 龍

幻冬社、2005年、ISBN:434400759X (上)

4344007603 (下)

現実には6カ国協議が注目されているが、北朝鮮の陰謀で九州福岡に同国特殊部隊が侵攻する二〇一一年を想定した近未来小説。

村上によると、数年後の日本は経済的に破綻し、米国からも見放され、裏切られたと感じた日本国民は軍拡路線に転じて行く。さらに初期の記述では、日本の失業率は11パーセントを越え新宿中央公園ではホームレスが組織的に生活をし、その組織を管理するNP と称した暴力団が公衆便所の使用から食料の配給等あらゆる利権を管理するようになるとの事。

この辺りは本筋とはあまり関係ない記述ではあるが、想像としては面白いかもしれない。いかにも劇画タッチである。

本筋の北朝鮮特殊部隊による福岡への侵攻と占領だが、大元の設定にかなり無理があるとは言えるだろう。しかし、それこそ小説なので下手なりリズムは度外視しようではないか。液体に姿を変えられるロボットが人間を襲うという設定と同レベルという事で。そう想って読めば日本が他国に侵略されるという話はなかなか興味深い。冷戦時代、北朝鮮の脅威麻垂れよりソ連が北海道に侵攻するのだ、アラスカに侵攻するような話は沢山あった。千歳にMIG

25が亡命の為飛来したという驚くべき歴史的事実を記憶している。同輩も多かったろう。しかし、その時代から日本政府の弱腰は伝統的に継承されているようだ。件の福岡占領においても日本政府は最後まで弱腰を通している。これは世界的な事実なのかもしれないと想う今日この頃。結局、米国に見放された日本は途方に暮れ自立への道すら見いだせない世情を反映している。その事実をフィクションとはいえ如実に活字にされると笑いさえ込み上げてくるから始末に悪い。

具体的にどういう方法で福岡へ侵攻し占領統治、そしてその結末は……。その辺りは本書を読んでもらって、村上の筆力や構成等の善し悪しを考えるのは辞めにする。その上で、全体が劇画タッチ、もつと言えば漫画チックとも言える話、すなわち、日本の一部を他国に侵略されるという、誰もが一度は空想した経験があるはずのストーリーを、大真面目に活字にしたという点、言い換えると、我々読者は村上のバカバカしいとも言える大真面目な勇気を充分楽しめるという事になるのか。結末がどうであるかが、「今」なら読め、「今」しか読めないコミックがここにある。

(小張寅僧)



# Gap Year

「こちらには、Gap Yearと呼ばれるものがありまして、分かりやすく言うならば、休憩・お休み、と言ったところだろうか。A level、いわゆる日本で言うところの高校を終えた後、大学に行く前、働き出す前に、とりあえず今まで勉強頑張ったから、ちょっと休もうよ」と言った趣向の、何ともブリティッシュなこの習慣。別にこれは、何かの制度に組み込まれている訳でもなく、何でもないので、誰もが名付けたのか、いつの間にかのびYearなんて言う名前まで付いてしまったりして、かなり認知度は高いらしい。

では、そのお休み期間に何をするのかといえば、海外で働いてみたり、バックパックを背負って旅をしたり、何か新しい事に挑戦したり、学んだり、何処かへ行ってボランティアをしてみたり、はたまた一年間思いつきり遊んだりと実に様々。そんなことをして一年、又は二年ぐらい、今まで自分がいた流れのようなものから一歩外れてみるのです。先日、ユブでそんなGap Yearに目をつけた旅行業者が紹介されていて、改めてふと思いついたこのGap Year。早速インターネットで調べてみると、結構な数の業者があつて驚いた。ざっとみただけでも三、四つは案に見つける事が出来た。



こちらには大学受験が無く、高校の成績で行ける大学が決まるからこう言う事が出来るのだろうか？にしても、オーストラリアにはそんな言葉は無いとフラットメイトは言ってるし、フランス人のクラスメイトも「本当、Gap Yearってイギリス人よね」とか言ってたし、どうやらイギリス特有のものらしい。今までは僕もただの息抜きだばかり思っていたこのGap Year。もしかすると、ナカナカ良い習慣なのかもしれない。

「本当、Gap Yearってイギリス人よね」とか言ってたし、どうやらイギリス特有のものらしい。今までは僕もただの息抜きだばかり思っていたこのGap Year。もしかすると、ナカナカ良い習慣なのかもしれない。何だか、ユブで説明を聞いてるうちにそんな気がしてきた。大学に行く費用を親や銀行から借りたり、授業料は運良く出してもらえても生活費は自分で稼ぐと言った人が殆どなので、お休み期間とは言いつつも大学や旅行に行く為のお金を貯めるため、その中の一定期間は大抵みんな働いている。高校が終わって、これから自分が大学で本当に勉強したい事や、やりたい事(仕事など)を決める前に、そんな風に一歩引いた所に立ってみて、新しい事にチャレンジしたり、知らない場所に行ってみたりしながら、改めて、自分に考える機会を与えるのは良い事のような気がする。自分も、そんな風にしていたらここまでブラブラしていなかったのかもしれない。とか、そんなことを思った。いや、ちょうど今タイムリーだからなのか？今後の進路を、そろそろ本気で考えなくちゃいけない時期。もしかしたら心が無意識にGap Yearを欲しがっているのかもしれない。そう思った瞬間に、「いやいやいや」と頭の中から声が聞こえてきた。

「アンタ、今まで散々Gap Yearやってるじゃん」

はっ。われながら鋭い突っ込み。。

英語を勉強するといって日本を出てきて、何年ここにいる？以前は、仏像や能面、彫つたりする職人になりたかったんじゃ？漫画家になりたい、と元氣よく宣言して大学受験をやめてみたり、ビザの欲しいお姉さんと偽造結婚して200万円と言う話に大乗りだった所、その話を持ってきたバイト先の先輩に逆に説教されたり、大きな船の上で働くと言つ夢があつたり、アルバイトはとりあえずやつた事が無い事をしようとして色々やってみた。考えてみれば、昔からずっと何かの流れから一歩退いた所にいたような気がする。それともそつ言つ所を目指してたのか。

働いている、いない、学生である、ないは別の話として、早い話が「高校卒業してから、アンタ、ずつとGap Yearですね」がーん、と脳みそを打たれるようなショック。すぐ最低な響きだ。。自分がダメな人間のような気がしてならない。一歩引いた所から、自分を見つめ直すというお休み期間には大賛成だけれども、そこから戻つてこれらになつてしまつのはどうだろう。そんな訳で決めました。「No more gap year」Gap Yearやめます、いい加減。相変わらずお金にならなかつたり、アンダーグラウンドだったりするかもしれないけど、とりあえず経験でだとか、これをやつてみたいとかではなく、これからは、少しずつ積み上げて行くような心構え。

「この年にして遅すぎるか？いやいや、人生はこれから。つてかそう思いたい。」

(神山)

アクアネット アクアネット アクアネット アクアネット  
 Let's mind the harbour! Let's mind the harbour! Let's mind the harbour! Let's mind the harbour!  
  
 湊文社 湊文社 湊文社 湊文社  
 SOBUNSHA SOBUNSHA SOBUNSHA SOBUNSHA

ジェネラル・エレクトション

# 総選挙ワーズ

ポスタルプライベートイゼーション

postal privatization = 郵政民営化騒動を発端に始まった今回の選挙に関連して目に止まった英語をいくつか拾ってみた。(望月)

## assassin [アサスン] 刺客、暗殺者

そもそもは十字軍時代にキリスト教徒を暗殺したイスラム教徒の秘密結社員のこと。

近頃、ブッシュ大統領にも影響力を持つという保守的テレビキリスト教団のリーダーが、ベネズエラのチャベス大統領を名指して assassinate (暗殺する) べきだと呼びかけ、物議を醸した。米政府の反応は “inappropriate (不適切)”。前大統領がお姉ちゃんと仕出かしちゃって懺悔した時と同じ単語。

露骨な反米で知られるチャベス氏は猛反発だ。

“If anything happens to me then the man responsible will be George W Bush. He will be the assassin. This is pure terrorism.” (英訳はBBC)

「私に何か起ったら、責任はジョージ・W・ブッシュにある。彼が刺客だってことになる。これこそ本当のテロだ」

今の日本の刺客と違って、こっちは本当に死んじゃう。どっちもキリスト教徒なんだけども。

## dissolution [ディソリューション] 解散、廃止

かつてイギリスのわがまま大王ヘンリー八世が、女房を若めのアン・ブーリンに乗り換えようと画策、ローマ・カソリックと縁を切って英国国教会を立ち上げた。ひどい目に遭ったのが

各地の修道院であった。世に言う「修道院の廃止 Dissolution of Monasteries(1536-40)」である。刺客の名はトマス・クロムウェル(清教徒革命の人とは違います)。徹底的にぶっ壊した。修道院が所有していた広大な土地、財産を没収され、財政は潤った。

今日の前を見ると、初恋の例のやつをモノにしたくて、古い連中見放して、dissolution 強行して、刺客を放った人がいる。でも本当にぶっ壊れるかは、まだまだわからない。恋の相手も刺客にしても、一寸先は闇。ヘンリーの場合、アンもトマスも結局は処刑しちゃった。

## manifesto [マニフェスト] 公約

もしも、何か千載一遇の機会がこの英語を言わなくてはならなくなったとき、発音に注意してほしい。最後の「ウ」が大事なのです。なぜなら「明白な」とか「明らかにする」とかいう意味の manifest [マニフェスト] というのもあるからです。

## New Komeito [ニュー・コメイトウ] 公明党

対外的に自民党はLDP(Liberal Democratic Party)、民主党はDPJ(Democratic Party of Japan)など党名の英訳があり、海外のメディアもそれを採用しているのだが、公明党だけが New Komeito。“New”なのは、新進党を結成するときに一回解散したから。OFP(Open and Fair Party)とかあっても良さそうなもんだが、ホームページを見ても特にそういう訳語は見当たらない。そもそも海外メディアに公明党が引用されることはあんまりないと思うのだが、それでもどこかの英字新聞で New Komeito の文字を見た記憶はある。外国人にはわからない名前だろう。近頃はめっきり大人しくなったIRA(Irish Republican Army)、アイルランド共和国軍の政治部門を担う「シン・フェイン(Sinn Fein)党」みたいなもんだ。こちらの意味は、アイルランド語で「われら自身」である。

ちなみに鈴木宗男氏の新党大地はNPD(New Party DAICHI)で、現代ドイツにおいてナチスの後継者を自認する「ドイツ国家民主党(Nationaldemokratische Partei Deutschlands)」や、ヘンリー8世みたいに超絶わがままな人に当てはまりそうな「自己愛性人格障害(Narcissistic Personality Disorder)」などと同じ。

あなたの平穏な生活を脅かすスーパーストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。あなた一人で悩まないでください。

相談無料  
秘密厳守

フリーガン対策  
指導いたします

スーパーストーカー  
バスター

produced by

P.D.Agency

tora@pda.co.jp

4-3-49-1, Suginami-ku,

Tokyo 166-0015, JAPAN

voice : +81-5347-9063

facsimile : +81-5347-9064

(一面から続く)

なのである、という自己満足を得ようとしているに過ぎないのではないか。そんなことを思う。そう思うと、太陽にじりじりと照りつけられて零れる汗のみならず、自らの浅ましい考えに胸がきりきりと締め付けられることによって生ずる一味違う汗が加わる。そこで、反省した私は先の団子虫を掬い直し、元の唐辛子の根に戻すのである。陽光を浴びて輝く唐辛子の葉が、ああ、そうかい、君てえ人間は団子虫を労るあまり、吾輩の根などどうなっても良い、と言っのかい。左様ですか。はは、団子虫どもよ、思う存分、我が根を齧るが良い。こうなたら、ぐれてやる。枯れてやる……、と、そんな唐辛子の声が聞こえる。ああ、そんなことは私にはできません。何故ならば、彼が望んでここに生えたのはなく、私が勝手に苗を購入して、勝手にここに植えたのである。彼に足があり、移動できるのなら話は別だが、動けない以上、

環境整備は、当然のことながら、私の責務である。唐辛子には何の非もないのだからして。ここで彼を守らなかつたら、縁日でミドリガメを購入したのに数日で飽きてしまつて死なせてしまふ、無責任な小学生と変わらなくなつてしまふ。そんなことではいけない。私は、再度、スコップに団子虫を載せ、それに加えて今度は葛藤もそこに載せて、近所をうろつるあわあわじたばたするのである。団子虫入りのスコップ片手に、界限をうろつく風体の怪しい男。それが私。嫌な汗が募る。ああ、私はどうすれば良いのか。

これは、勿論、一例に過ぎないけれど、日々の園芸にはこのような葛藤がついて回る。庭仕事とは生命に関する葛藤のことなのではないか、と思うほどである。大袈裟、かつ、強引だけれど、正直な心境である。

一仕事終えて部屋に上がった私は、屢々、こんなことなら、もう庭弄りなんて止した方が良

いのではないかと、という気になる。ニュースでうんざりし、草木や団子虫を相手にして心身共に疲れ果て、一体、朝から私は何をやっているのか、と。この、毎日の半時間やら一時間を積み上げれば、年に二、三百時間にはなるわけで、それだけあれば、素敵な曲や惚けた文章がたくさん書けるのではないかと。そうだ。私は、自称藝術家なのだからして、土弄りより創作に専念すべきではないか。そんなことを思う。合理的思考。

けれども、私は、日々の草毛りを止めるつもりはない。自称藝術家が合理的なんぞ言い出したらお終いだ。合理に淫する者は合理に死す。そんな言葉がありませんでしたか。なかつたのなら、私が作ります。合理に淫する者は合理に死す、つてね。諸君も肝に銘じ給え。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki,  
architect

Voice : +81-3-3220-0644  
Facsimile : +81-3-3220-0640;  
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp  
篠崎健一アトリエ



## 万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>

## bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、パーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。

編集後記  
からす新聞第七巻八号(通巻第八〇号)、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇五年九月二五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

**ファミマ**

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号  
03-3379-1451

ファミマ  
おうめかいどう  
中野板上駅